

2024年4月25日

シライ電子工業株式会社  
代表取締役 五藤 学 殿

株主  
白井 基治  
Tel : XXXXXXXXXX

## 通 知 書

### 前略

私は、シライ電子工業株式会社（以下「貴社」といいます。）の株主として、他の株主とともに株主提案（議題：取締役1名選任の件、以下「本株主提案」といいます。）を行ったところ、本株主提案に至った経緯等について、改めて本書面にて通知したく存じます。

私は、貴社に入社して以来、私の貴社に対する強い想いに共感してくださった役職員その他関係者の皆様からその経験及び知見を力添えしていただいたことで、後述のとおりの実績を上げることができ、結果として、貴社における企業価値の向上を実現してまいりました。

また、私と志を同じくする年長者の方々と想像もできなかったような目標を達成することができ、さらに大きな目標を掲げてそこに向かっていく毎日は私にとって本当に充実したものでした。そんな日々の中でいつしか私が置き去りにして忘れてしまっていたものが、「大きなことをなすには、みんなで共に歩んでいかなければならない」という気持ちです。その気持ちを忘れてしまったことで、私は傲慢な態度をとるようになり、時には激しい言葉で年長者の方々の気持ちを傷つけてしまいました。特に貴社における新規事業の立ち上げに携わっていた直近1年間における私自身の態度は特に傲慢なものであったと思います。

貴社に関わる数多くの方々、それぞれの皆様の異なった考え方や想いを尊重することができていれば、今回のような事態を招くことはなかったと思っております。私の人間力の不足により、突如として代表取締役の解職に至り、貴社の企業価値を毀損する事態を引き起こしてしまいました。このような事態となってしまうことについて、貴社の株主、役職員、取引先及び顧客その他関係者の皆様に謹んでお詫び申し上げます。本件の原因について深く自身を見つめ直し、正すべきであった過去の自らの言動について、時価総額1兆円の会社を目指すにあたって理想的なリーダーシップとはいかなるものであるかを熟慮し、反

省しております。

一方で、創業者及び取締役が突如として私を代表取締役から解職したことは、企業価値及び株主価値の最大化が唯一無二の使命である上場企業の取締役として、到底合理的な経営判断とはいえないと存じます。加えて、私の解職に至るまでの意思決定のプロセスが不透明であり、開示内容も限定的であることから、貴社取締役会にはガバナンス不全の懸念があるとも考えております。従って、私としては、改めて取締役に就任し、企業価値向上に向けて真摯に取り組みたく、株主の皆様のご判断を仰ぎたいと考え、本株主提案を提出させていただいた次第でございます。

私は、貴社に入社して以来、祖業である PCB 事業の稼ぐ力の向上とそれに伴う企業価値の向上を目指した結果、2021 年 3 月期のコロナ禍における大幅な売上減少の最中での営業黒字転換、2022 年 3 月期及び 2023 年 3 月期の 2 年連続での創業以来最高益更新を達成してまいりました。今後も私が示した経営方針である「盤石な経営基盤と未来を切り拓く種」に基づき、既存 PCB 事業で盤石なキャッシュフローを築き、利益を株主還元及び新規事業投資に回すことで、永続的な企業価値及び株主価値の向上に邁進してまいります。

草々